

ま ちかど インタビュー

「追悼」と「復興」の祈りをこめて 花火大会開催 広野町を明るく、元気に、復興のきっかけとなれ

東日本大震災により犠牲となった住民の方々を追悼するとともに、福島第一原発事故により避難している住民の再会の機会と位置づけ、本年8月11日（土）、メイン会場を「広野町築地ヶ丘公園」、花火打ち上げ箇所を「浅見川河口」とし、「広野町復興祈念花火大会」が開催されます。

そこで今回は、花火大会をきっかけとして、町の復興への想いや願いなどを町民の皆さまにご意見を伺いました。



鈴木 すみさん
(下浅見川・広長)

出さなければならぬと思います。

今、町が変わるチャンスだと思えます。今回の花火大会で久しぶりに住民が再会して、たくさん笑顔が咲くことを願います。

私は生まれ育ったこの町がやっぱり好きです。

震災から1年以上がたつても、まだ、皆さん不安を抱きながら生活していると思います。私は町の復興には住民も立ち上がり行政と一緒に復興に向かい歩み



吉田 陽光さん
(下浅見川・桜田)

避難生活が長引き、子どもたちも不安な心境のなか、この復興祈念花火大会を機会により多くの町民の方が再会し、広野町に戻りたいと思えるイベントになって欲しいと思います。

また、他の町村の方にも広野町に住みたいと思えるような活気ある素敵な町づくりをしてほしいと思います。



平成22年サマーフェスティバルの花火

編集後記

「原発は安全」と言われていたときは「セシウム」「ストロンチウム」などの放射性物質や放射線量を示す「シーベルト」「ベクレル」といった専門用語を知ることとはなかったが、今や日常生活の中でこれらに無関心ではいられない。

本来なら、稲の成長を見守り、日暮れには蛙の合唱に聴き入り、夜には淡く光る蛍火を楽しむ季節を迎えるといつのに、休耕を余儀なくされた水田は荒れて、生産意欲はおろか労働意欲すら減退してしまふ。

町は今年、放射性物質低減を目標とす

る水稻栽培の実証試験を行なっているが、一日も早く元の美しい田園風景を取り戻したいものだ。

(渡辺 久長)



美しきわがふるさと「広野」

次の定例会は9月です

- 発行・編集責任者
議長 鈴木紀昭
- 広報委員会
委員長 渡邊正俊
副委員長 北郷幹夫
- 委員 塩 史子
委員 渡辺久長
委員 遠藤 智
委員 畑中大子
委員 小磯利雄

